



柏崎市立博物館学芸員・新潟県石仏の会事務局長

渡邊 三四一

WATANABE MIYOICHI

1957年 柏崎市出身
1993年 石仏の会発足

1986(昭和61)年に開館した柏崎市立博物館は今年で38年。開館当初から勤務する学芸員の渡邊三四一さんは、米山信仰や石仏、浜下駄、漂着物の他、風流踊の一つとして2022年ユネスコ無形文化遺産に登録された「綾子舞」など、数々の調査研究を続けてきた。

民俗学と出会ったのは大学時代。入学したばかりのキャンパスで声を掛けられ、民俗学研究会へ入会した。初めは分からないことだらけだったが先輩たちも親切で雰囲気も良く1回、2回と参加するうちに民俗学にはまってしまったとほほ笑む。大学時代は夏と冬の休みを利用し3泊4日ほどで各地へ調査に出かけた。民俗学に関する調査は範囲も広く、社会生活の仕組みや風習、信仰、年中行事、人生儀礼、芸能など、生活全般に及んだ。調査地域の民家に泊めてもらい生活を共にしながら聞き書きの調査を行う。顧問の先生を中心に調査データを合わせて報告書にまとめた。福島や和歌山、九州へも行き、各地で調査を行った。

卒業後は別の大学の聴講生として1年を過ごし、人生儀礼を紹介する雑誌社へ就職。柏崎市に博物館が開館することを知り、民俗学ができるならと地元へ戻る

ことを決めたという。

学芸員になり地域の個性をテーマに掲げたいと考えると、やはり「米山」だった。米山にはいくつか先行研究があり、米山塔から米山信仰の歴史的な展開を描こうとした報告書と出会い、これを膨らませたいと米山塔の県内調査を3年かけて行った。まずは地元から調査を始めようと試みたが詳しい場所まではわからない。幸い柏崎には石仏の研究者である阿部茂雄さんがおり、同氏から教えを請い、ときには道案内してもらいながら調査を進めた。上越や中越、遠くは新発田市まで広がり、最終的には450基ほどの米山塔を調査。「米山信仰論—米山塔からの視点」、「外なる米山」等々、さまざまな論文へとつながっている。

調査で歩くうちに庚申塔や二十三夜塔、道祖神なども見てまわり、米山塔以外にもいろいろな石仏があり、石仏はいまも祖先たちの多彩な祈りを伝えていることを知った。

1991(平成3)年「柏崎の石仏—石が語るもう一つの歴史—」で市民参加型の特別展を開催。友の会会員と共に集めた2000枚の調査データの成果であった。特別展を通して市内外から同好の士が集い、それをきっかけに2年後の1993(平成5)年に「新潟県石仏の会」発足へと展開、今年で31年目を迎えた。

「すべては出会い」だと渡邊さん。学ぶことは面白いし学んだ成果を市民に返すことは博物館や学芸員の使命でもある。博物館を入り口にフィールドへ出かけ、現場を通して地域の個性を実感してもらいたいと笑顔で話した。

第28回 石仏フォーラム

11月10日(日) 10時~15時30分

柏崎市立図書館(ソフィアセンター)2F多目的ホール

○公開講演会「米山周辺の中世石塔を探る」

柏崎市立博物館学芸員 伊藤啓雄

○調査研究報告「新潟県の風の神をめぐる」

井上光威・渡邊三四一

